

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902439		
法人名	医療法人社団 及川医院		
事業所名	グループホーム おいかわ 1F		
所在地	旭川市豊岡4条10丁目4番1号		
自己評価作成日	平成23年8月23日	評価結果市町村受理日	平成23年9月21日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902439&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム おいかわ 基本理念
1、入居者さんを、個人として尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活を実現するようつとめます。
1、入居者さんが主体的な決定を行えるよう支援し、その決定を尊重します。
1、入居者さんが、安らぎと自信が感じられることができ、かつ安全と衛生が保たれた環境で生活が出来るように援助します。
1、入居者さんが、その能力を最大限に発揮できるように努め、適切な介護を継続的に行うとともに、適切な医療が受けられるよう援助します
上記、基本理念に基づき支援しています。各スタッフには資格の取得や外部内部研修などの参加を促し、よりよい介護支援ができるよう取り組んでいます。医療機関が経営主体のため健康管理・急変時の対応など迅速に対応できるように整備されています。(インスリン自己注射・胃瘻・透析などの入居者さんがいます。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<医療との連携と充実>
入居者は開設当初からみると年々と重度化になってきている。経営母体が医療機関でもあり、看護師を中心とした内部研修で健康管理が整備されており、定期的な往診・受診はもとより重度化による急変時の個別対応など迅速に医療が受けられるよう積極的に支援をしている。また、医療頻度の高い透析や在宅自己注射、ストーマー、などの患者の相談にのり受け入れもしている。
<職員の育成推進>
入居者により良い介護サービスの支援が出来るよう、日頃から、施設内の掲示板に研修・勉強会の参加の呼びかけをしており、各職員には資格の取得や外部研修の参加を積極的に促しているのが特徴的である。

.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者さんを、個人として尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活が実現するよう努めている。地域密着型サービスの意義と基本理念を大切に実践していく。	事業所独自の理念をつくりあげ、職員が共有し、その実践に取り組んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初より町内会には入会し、行事等には参加している。グループホームの行事にも参加していただけるように町内会回覧・案内状を配布している。	町内会の各行事に参加しており、当事業所の行事には、地域に参加を呼びかけて施設を知ってもらおうよう交流に努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人の入居者家族や見学者の話の中で認知症やホームの役割等を話し理解を求めている。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・町内会・見識者などの協力を得て不定期に年5回開催した。地域住民・ご家族の協力を一層深めるように議題等も考えながら開催したい。	家族・町内会・見識者の協力を得て定期的に開催し、運営に関する報告や事業所の取り組み内容の意見交換の場になっている。	今後は、年6回を目安に運営推進会議の開催を期待します。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護高齢課の方の運営推進会議出席して頂けるようになり、機会があれば今後取り入れていきたい。介護高齢課が主催する説明会には必ず参加している。	市や包括センターとは日常業務を通じて情報交換と連携を深めるように努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議・フロア会議において身体拘束禁止に取り組んでいる。スタッフの認識も一致している。	全体会議などの中で、身体拘束廃止について、管理者や職員の認識の共有が行われている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝のミーティングの中で前日・夜間の行動状況等報告記録し虐待防止に努め、事前に対策をしている。管理者・看護師等が勉強会等を実施している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が外部研修に参加しています。職員にも研修会に参加するように促している。現在の所、成年後見制度を利用している方はいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前・契約凍結時に必ず家族等に十分時間をとり説明・同意をいただいている。不安や疑問の際はその都度、説明し理解を頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんご家族の要望事項等を気軽に話せる雰囲気を日頃から作り、要望事項を反映するように心がけている。運営推進会議で家族等の意見が気軽に出るように雰囲気づくりに心がけている。	利用者、家族が気軽に話しかけの出来る環境づくりに努めており、苦情、要望などの意見箱の設置もしている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ミーティングなどで話し合いや、意見を聞いて業務改善に取り組んでいる。	日常業務を通じて意見や要望、提案を聞く機会を設けて運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は管理者を兼ねており日頃よりスタッフのキャリアアップに取り組んでいる。労働環境・やりがいをもてるように会議等において職員の意見を聞いて出来る限り改善している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員一人ひとりのスキルアップを図るように努めている。職員に対し研修・セミナーの開催などを回覧し積極的な参加をうながしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研究会・合同研修会などの職員参加して、他事業所との連携を図るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族に来所していただき、要望事項・身体状況などお聞きし対応している又は自宅・病院等に出かけて説明等をして本人・ご家族との関係づくりに心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族から今までの過程やご苦労を傾聴し、ご家族との関係を築いている。気軽に相談できる雰囲気づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、何の支援を必要としているのか、何を求めているのか見極め必要な支援・介護・医療等を提供している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状況をよく見極め、その人らしい生活をしていただけるように、信頼関係を構築するように心がけている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機会あるごとに、入居者さんの状況を伝え何かあればご家族に協力してもらえる関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人が来訪された時は、居間や居室でゆっくり談話ができるように配慮している。なじみの場所や知人などに会いたい場合は職員が同行又は送迎している。	日頃から、馴染みの人や場所などに何らかのつながりの機会をもうけて、交流が途切れないよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションなど入居者さんが一緒にかかわれる場を大切にしている。トラブルの際には、できるだけ職員が間に入って解決に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院先等をたずねて状況を把握し家族の相談等に対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から会話・行動・表情・そぶり等から本人の意向や想い等をさがし職員全員で検討し実践している。	毎日の生活の中から一人ひとりの暮らし方の希望や、意向の把握に努め、職員間で情報を共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの、生活習慣をご家族や本人からよく聞き今までの生活習慣を崩さないように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌(バイタル・排尿・排便・水分・食事量等)のチェックしスタッフ間で共有し体調変化を見逃さないように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者さん・ご家族からご意見や思いを聞き全体会議・フロアー会議等で話し合いサービス担当者会議を経て入居者さんやご家族のご意見や想いを反映した介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族と話し合い、全体会議やフロアー会議、サービス担当者会議で職員の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者さん一人ひとりのファイルを作成し、食事量・血圧・脈拍・体温・尿便回数・その他特異事項等を記入、日々の状況記入し職員が共有し、サービス計画に役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況、ニーズ対応し柔軟に対応出来るように努めている。。外泊や外出等に対しての送迎はもとよりいるいるな要望に対し柔軟に対応できる様に心がけている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方々、民生委員さん、地域包括さんの訪問・交流などの協力をえながら入居者さんが安心して豊かな暮らしができるように支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族が希望する病院を受診している。希望が無い場合は医療法人の及川医院を受診している。毎週及川院長が往診して状況を把握している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、関連する及川医院からの往診や適切な医療を受けられる体制になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝看護師が入居者さんの健康状況を把握のために、来所され職員と相談・指示を出している。日中・夜間の体制も及川医院の看護師及びホーム看護師との連携で対応している。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には職員が医療機関と家族の連絡等を密に取り状況報告・入退院時必要品等の運搬、ご家族の要望などを聞き取り対応している。かかりつけ医とは常に情報提供などをして関係づくりに努めている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症・重度化した場合や終末期はどのように対応するか常に家族と話し、意思確認をしている。重度化した場合にはどうするかかかりつけ医と、常に話し合っている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを説明しながら方針を職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、常に急変時及び事故発生時に対応できるようにしている。看護師による指導も常に受けている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・消火設備会社の協力を得て通報訓練・避難訓練・消火訓練などを定期的年3回行っている。運営推進会議等で町内会・近所の方に、協力を働きかけている。	定期的に消火訓練や避難訓練を実施して、町内会・近所の方の協力体制を整えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に個人として尊重し、安心と尊厳のある生活が実現できるように入居者さん個々に対応している。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような不適切なケアはないか職員同士で情報を共有している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんが可能な限り遠慮なく自分の気持ちを表現できる雰囲気作り及び自己決定できるように心がけている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さん個々のペースに合わせて可能な限り対応し、強制はしていない。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者さん個々の生活習慣、好みなどを尊重し出来る限り支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんの嚥下状況・咀嚼能力などに合わせて調理し、準備できるところは手伝ってもらい職員と一緒に食事をしている。	利用者の身体状況や健康状態を考えながら調理し、毎日の献立内容が工夫されている。また、個々の能力に合わせて食事の準備の手伝いを職員と一緒にしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量(主食・副食)・水分摂取量など日々チェックし個々の記録簿に記載し確認・把握をに対応している。体調・状態に合わせた調理・形態にしてバランスを考え支援している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さは職員が理解している。声掛け、誘導、見守りなどしながらそれぞれの能力に応じた対応をしている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排便チェック表で管理し職員・看護師と協力しながら個々の体調・パターン・習慣などを考慮しながら自立に向けた支援をしている。可能な限りトイレへ誘導している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように時間を見計らってトイレに誘導し、排泄の自立に向けた支援をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者さんの生活状況・体調・食事量などを考慮しながら飲食物を工夫して便秘予防に努めている。下剤の使用は医師・看護師・職員が相談しながら使用している。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者さんの希望や体調に合わせた入浴を心がけている。楽しく入浴できるように入浴剤の使用や雰囲気づくりに心がけている。入浴日は週4回。特別の場合は随時入浴。	入浴は週2回であるが、本人が希望すれば曜日が対応可能になっている。また、楽しく入浴できる雰囲気づくりや入浴剤を使用する等の工夫をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣・体調などを考慮してその状況に応じた対応し、日中の起床・行動などにより夜間が気持ちよく睡眠できるよう配慮している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個々の記録簿にファイリングし職員が薬の内容を確認できるようにしている。(効能・効果・副作用等)副作用が疑われる場合には医師と連絡するようにしている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごして頂けるように、出来るだけ入居者さん個々の出来ることは尊重し又はお願いしている。(洗濯手伝い・掃除・園芸・食事の用意等)			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>個々の身体状況・健康状況などを考え、なるべく希望に添えるよう心がけている。散歩はもとより花見・イベント見学・買い物等を実施している。町内会のイベントなどには参加するように心がけている。</p>	<p>身体状況や健康状態を考えながら、一人ひとりの希望に添って散歩や買い物、イベント見学などの支援をしている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の同意・希望によりお金を持っている方もいるが、その他の方は普段はご家族・本人等の同意を得てお金を預かり、買い物のときに支払ができる入居者さんには、支払をしてもらっている。</p>			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者さんが電話を個室に設置している方もいるが、ない方も職員に申し出たり自由に使用している。手紙についてはご自分で書いたり、希望により職員がお手伝いをしたりして出している方もいます。</p>			
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間・廊下・食堂等に四季や催し物にあわせた飾り付けをしている。入居者さんと一緒に飾り付けをしている。入居者さんが心地よく日常が過ごせるように家具の配置・日光などに配慮している。</p>	<p>明るく清潔感が漂っており、季節毎の飾りつけやイベントの写真を掲示し、季節感や生活感を採り入れている。また、心地よく過ごせるよう椅子やソファを置きゆっくりと落ち着ける家庭的な雰囲気になっている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールに椅子やソファを置き思い思いに談話・談笑できるように工夫している。</p>			
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者さんが家族と相談しながら思い思いの家具やなじみの品々を持ち込み入居者さんが居心地よく過ごせるようにしている。職員もアドバイスしながら実施している。</p>	<p>利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、馴染みの品々を持ち込んで、居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者さん個々の状況に合わせてできることできないことをスタッフ間で話し合い日々検討し安全で自立できる生活が送れるように工夫している。</p>			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902439		
法人名	医療法人社団 及川医院		
事業所名	グループホーム おいかわ 2F		
所在地	旭川市豊岡4条10丁目4番1号		
自己評価作成日	平成23年8月23日	評価結果市町村受理日	平成23年9月21日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902439&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム おいかわ 基本理念
1、入居者さんを、個人として尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活を実現するようつとめます。
1、入居者さんが主体的な決定を行えるよう支援し、その決定を尊重します。
1、入居者さんが、安らぎと自信が感じられることができ、かつ安全と衛生が保たれた環境で生活が出来るように援助します。
1、入居者さんが、その能力を最大限に発揮できるように努め、適切な介護を継続的に行うとともに、適切な医療が受けられるよう援助します
上記、基本理念に基づき支援しています。各スタッフには資格の取得や外部内部研修などの参加を促し、よりよい介護支援ができるよう取り組んでいます。医療機関が経営主体のため健康管理・急変時の対応など迅速に対応できるように整備されています。(インスリン自己注射・胃瘻・透析などの入居者さんがいます。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者さんを、個人として尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活が実現するよう努めている。地域密着型サービスの意義と基本理念を大切に実践していく。			
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初より町内会には入会し、行事等には参加している。グループホームの行事にも参加していただけるように町内会回覧・案内状を配布している。			
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々の入居者家族や見学者の話の中で認知症やホームの役割等を話し理解を求めている。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・町内会・見識者などの協力を得て不定期に年5回開催した。地域住民・ご家族の協力を一層深めるように議題等も考えながら開催したい。			
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護高齢課の方の運営推進会議出席をして頂けるようになり、機会があれば今後取り入れていきたい。介護高齢課が主催する説明会には必ず参加している。			
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議・フロア会議において身体拘束禁止に取り組んでいる。スタッフの認識も一致している。			
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝のミーティングの中で前日・夜間の行動状況等報告記録し虐待防止に努め、事前に対策をしている。管理者・看護師等が勉強会等を実施している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が外部研修に参加しています。職員にも研修会に参加するように促している。現在の所、成年後見制度を利用している方はいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前・契約凍結時に必ず家族等に十分時間をとり説明・同意をいただいている。不安や疑問の際はその都度、説明し理解を頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんご家族の要望事項等を気軽に話せる雰囲気を日頃から作り、要望事項を反映するように心がけている。運営推進会議で家族等の意見が気軽に出るように雰囲気づくりに心がけている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ミーティングなどで話し合いや、意見を聞いて業務改善に取り組んでいる。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は管理者を兼ねており日頃よりスタッフのキャリアアップに取り組んでいる。労働環境・やりがいをもてるように会議等において職員の意見を聞いて出来る限り改善している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員一人ひとりのスキルアップを図るように努めている。職員に対し研修・セミナーの開催などを回覧し積極的な参加をうながしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研究会・合同研修会などの職員参加して、他事業所との連携を図るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族に来所していただき、要望事項・身体状況などお聞きし対応している又は自宅・病院等に出かけて説明等をして本人・ご家族との関係づくりに心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族から今までの過程やご苦労を傾聴し、ご家族との関係を築いている。気軽に相談できる雰囲気づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、何の支援を必要としているのか、何を求めているのか見極め必要な支援・介護・医療等を提供している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状況をよく見極め、その人らしい生活をしていただけるように、信頼関係を構築するように心がけている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機会あるごとに、入居者さんの状況を伝え何かあればご家族に協力してもらえる関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人が来訪された時は、居間や居室でゆっくり談話ができるように配慮している。なじみの場所や知人などに会いたい場合は職員が同行又は送迎している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションなど入居者さんが一緒にかかわれる場を大切にしている。トラブルの際には、できるだけ職員が間に入って解決に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝看護師が入居者さんの健康状況を把握のために、来所され職員と相談・指示を出している。日中・夜間の体制も及川医院の看護師及びホーム看護師との連携で対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には職員が医療機関と家族の連絡等を密に取り状況報告・入退院時必要品等の運搬、ご家族の要望などを聞き取り対応している。かかりつけ医とは常に情報提供などをして関係づくりに努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症・重度化した場合や終末期はどのように対応するか常に家族と話、意思確認をしている。重度化した場合にはどうするかかかりつけ医と、常に話し合っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、常に急変時及び事故発生時に対応できるようにしている。看護師による指導も常に受けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・消火設備会社の協力を得て通報訓練・避難訓練・消火訓練などを定期的年3回行っている。運営推進会議等で町内会・近所の方に、協力を働きかけている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に個人として尊重し、安心と尊厳のある生活が実現できるように入居者さん個々に対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんが可能な限り遠慮なく自分の気持ちを表現できる雰囲気作り及び自己決定できるように心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さん個々のペースに合わせて可能な限り対応し、強制はしていない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者さん個々の生活習慣、好みなどを尊重し出来る限り支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんの嚥下状況・咀嚼能力などに合わせて調理し、準備できるところは手伝ってもらい職員と一緒に食事をしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量(主食・副食)・水分摂取量など日々チェックし個々の記録簿に記載し確認・把握を対応している。体調・状態に合わせた調理・形態にしてバランスを考え支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さは職員が理解している。声掛け、誘導、見守りなどしながらそれぞれの能力に応じた対応をしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排便チェック表で管理し職員・看護師と協力しながら個々の体調・パターン・習慣などを考慮しながら自立に向けた支援をしている。可能な限りトイレへ誘導している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者さんの生活状況・体調・食事量などを考慮しながら飲食物を工夫して便秘予防に努めている。下剤の使用は医師・看護師・職員が相談しながら使用している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者さんの希望や体調に合わせた入浴を心がけている。楽しく入浴できるように入浴剤の使用や雰囲気づくりに心がけている。入浴日は週4回。特別の場合は随時入浴。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣・体調などを考慮してその状況に応じた対応し、日中の起床・行動などにより夜間が気持ちよく睡眠できるよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個々の記録簿にファイリングし職員が薬の内容を確認できるようにしている。(効能・効果・副作用等)副作用が疑われる場合には医師と連絡するようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごして頂けるように、出来るだけ入居者さん個々の出来ることは尊重し又はお願いしている。(洗濯手伝い・掃除・園芸・食事の用意等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の身体状況・健康状況などを考え、なるべく希望に添えるよう心がけている。散歩はもとより花見・イベント見学・買い物等は実施している。町内会のイベントなどには参加するように心がけている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の同意・希望によりお金を持っている方もいるが、その他の方は普段はご家族・本人等の同意を得てお金を預かり、買い物のときに支払ができる入居者さんには、支払をしてもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者さんが電話を個室に設置している方もいるが、ない方も職員に申し出たり自由に使用している。手紙についてはご自分で書いたり、希望により職員がお手伝いをしたりして出している方もいます。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・廊下・食堂等に四季や催し物にあわせた飾り付けをしている。入居者さんと一緒に飾付作成をしている。入居者さんが心地よく日常が過ごせるように家具の配置・日光などに配慮している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに椅子やソファを置き思い思いに談話・談笑できるように工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さんが家族と相談しながら思い思いの家具やなじみの品々を持ち込み入居者さんが居心地よく過ごせるようにしている。職員もアドバイスしながら実施している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者さん個々の状況に合わせてできることできないことをスタッフ間で話し合い日々検討し安全で自立できる生活が送れるように工夫している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時に昼夜問わず避難できる体制作り。	非常時災害時のマニュアルの作成。	運営推進会議における地域住民参加の避難訓練。夜間の寝たきり、車椅子の入居者さんの避難訓練体制作り。	12ヶ月
2	13	職員の外部研修参加者が少ない。	勤務の関係で参加できない事情がある場合は参加できるような体制を作る。	職員間の協力体制作り。研修に参加できる体制作り。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。